

平成30年度の予算を紹介!

さっぽろのお金の使い道

4月からの1年間、市がお金をどう使うかをまとめた、平成30年度予算が完成しました。ここでは、予算のポイントや本年度行う取り組みの一部を解説。私たちの生活がどのように変わっていくのかを見ていきます。

【詳細】 財政課 ☎211-2212



予算とは市の1年の収入(歳入)と支出(歳出)の計画を示したもの

収入(歳入)

皆さんからの税金、国や北海道から交付されるお金、公共施設の使用料 など

支出(歳出)

医療や生活保護、除雪・排雪、道路や公園の整備にかかる費用 など

3種類に分けてお金を管理しています

一般会計 1兆116億円

福祉や教育など、市の基本的な事業の会計

特別会計 3,617億円

国民健康保険や介護保険など、一般会計と区別が必要な事業の会計

企業会計 2,611億円

地下鉄や水道など、料金収入で運営している事業の会計

一般会計の内訳

教職員給与の支払いを、北海道に代わって市が行うよう制度が変更。これに伴い、道税・市税の税率が変わったことなどにより、市税が340億円増え、「その他」のうち北海道からの交付金などが246億円減りました。

歳入
1兆116億円

市税 3,222億円	国庫支出金 2,241億円	市債 1,137億円	地方交付税 1,005億円	諸収入 982億円	その他 1,529億円
---------------	------------------	---------------	------------------	--------------	----------------

歳出
1兆116億円

私立保育園における保育の質をより高めるための補助や障がいのある方のための保健福祉費が156億円、「その他」のうち学校の新築・増改築や改修にかかる費用が68億円増えました。

保健福祉費 3,813億円	職員費 1,572億円	土木費 1,033億円	公債費 866億円	経済費 823億円	その他 2,009億円
------------------	----------------	----------------	--------------	--------------	----------------

平成30年度の主な取り組みを 4つの分野に分けて解説!

暮らし・ コミュニティ

子育て支援や福祉サービス、防災対策などをさらに充実させ、市民の皆さんが互いに支え合い、安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。



子育て

認定こども園や私立保育所 などの定員を拡大

43億7,800万円 **拡充**



保育施設の受け入れ人数を増やすため、認定こども園や私立保育所、小規模保育事業所の整備費用を補助。保育定員を約2,000人分増やします。

子育て

困難を抱える子どもや家庭を支援

1,100万円 **新規**

子どもの貧困対策として、困難を抱える子育て世帯を各種支援につなぐためのコーディネーターを配置。また、子どもの貧困の現状や対策の普及啓発に取り組みます。

子育て

子どもの預かり支援を利用しやすく

3,800万円 **拡充**

緊急時などに子どもを預けられる3つのサービスの事前登録手続きが、まとめてできる窓口を3区で試験的に設置します。

防災

モデル地区を設定し 地区防災計画の作成を支援

850万円 **新規**

町内会や商業ビルなどをモデル地区とし、ワークショップを開催。地域独自の防災マップの作成や訓練・研修の実施を支援し、防災意識を高めます。



除雪

地域や企業と連携して 除雪・排雪を推進

201億6,040万円



冬の都市交通を維持し、市民生活を守るため、適切な除雪・排雪や地域ボランティアへの支援などを促進。また、将来に向けた雪対策の計画である次期冬のみちづくりプランを作成します。

福祉

生活支援コーディネーターを 全区に配置

1億1,577万円 **拡充**

高齢者の困りごとを地域で解決できるよう手助けする推進員を、3区8人から10区27人に増員。より身近な地域の支え合いを進めます。



◀地域による支え合いの一例である買い物支援の取り組み

産業・活力

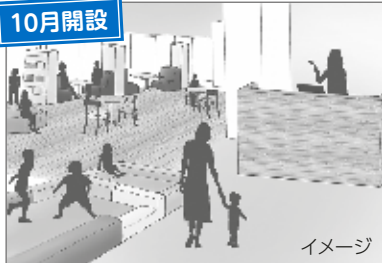
北海道の経済成長をけん引する街として、札幌の魅力を外内へ発信。企業の誘致や雇用の充実、将来を担う人材の育成を図ります。

女性の活躍

女性の多様な働き方を支援する窓口をオープン

5,800万円 **新規**

10月開設



イメージ

希望に合った働き方の実現をサポートする女性専用の相談拠点を開設。働く上での漠然とした悩みや保育に関することなどを相談できます。

開設場所エルプラザ内(北区北8西3)

魅力

円山動物園でアジアゾウを公開

12億5,400万円

来春公開(予定)



ミャンマーからのアジアゾウ4頭の受け入れに向けて、ゾウ舎と屋外放飼場を新設。このほか、飼育や繁殖のための研修、視察を行います。

雇用

シニア向けの仕事体験付き説明会の規模を拡大

2,400万円 **拡充**

60歳以上の方を対象とした仕事説明会を、市内5つの会場に増やして開催。企業と高齢者を結び付ける機会を設け、企業の人手不足を解消し、高齢者の働く場をつくります。



10月・11月・来春2月開催(予定)

スポーツ

スポーツの祭典を通じて街の魅力を発信

5,200万円

日本スポーツマスターズ 9月開催

シニア世代が対象の日本スポーツマスターズや、国体冬季大会スキー競技会を開催し、競技と札幌の魅力を広めます。



国体冬季大会 来春2月開催

(公財)日本スポーツ協会提供

教育

少人数制の算数の授業で未来を担う人材を育成

2億8,100万円 **拡充**

小学5、6年の算数の授業を、25人程度に分けて行う「算数にこころプロジェクト」を全ての市立小学校で導入。きめ細かな指導で、学ぶ意欲や論理的思考力を高めます。

経済

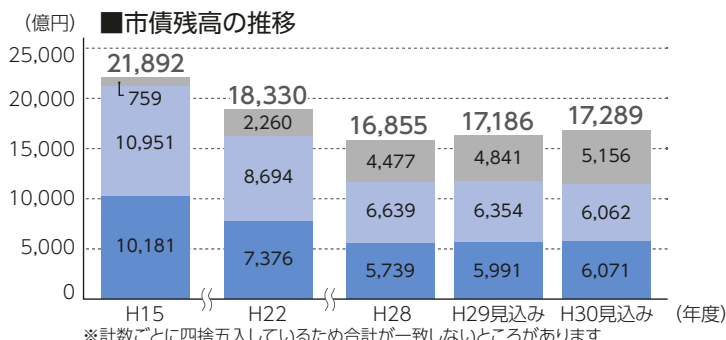
企業を誘致し、産業基盤を強化

13億1,700万円

人件費、開設費を補助するほか、豊富な人材といった札幌の強みを全国に発信。IT企業、食・医療関連企業などを呼び込み、新たな雇用を生み出します。

市債の状況

古くなった建物の更新や、国から支払われるお金を一時的に肩代わりするための臨時財政対策債の増加などにより、市債の残高は本年度も増える見込みです。しかし、将来世代に過度な負担を残さないよう、事業費の精査や効率的な事業執行などにより、市債残高の抑制に努めます。



低炭素社会・エネルギー転換

エネルギー効率の高い技術を積極的に導入できるよう支援し、将来にわたり持続可能な、環境に優しいまちづくりを進めます。

エネルギー 次世代自動車の導入を促進 3,500万円 拡充

電気自動車などの次世代自動車の購入費用の補助対象を拡大。水素を使って発電する燃料電池自動車を追加します(詳しくは31ページをご覧ください)。

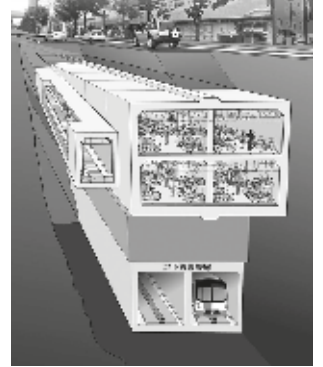


▲走行中の温室効果ガスが出ない燃料電池自動車

交通 駐輪場の整備や自転車の通行位置を明確化 10億900万円

都心部などの駐輪場の整備や、自転車の通行位置を分かりやすくする表示の設置を検討。歩行者も自転車も安心して通行できる空間をつくれます。

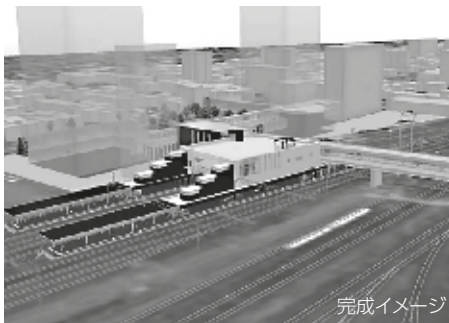
▶現在整備を進めている西2丁目線地下駐輪場のイメージ



都市空間

より魅力や活力があふれる街になるよう、将来を見据えた再開発や施設の整備などを行い、誰もが生活しやすい街を目指します。

再開発 苗穂駅周辺のまちづくりを推進 38億2,500万円



完成イメージ

JR苗穂駅舎を移転し、南北を行き来できる通路と駅舎を接続するほか、南北駅前広場の整備や民間による再開発を促進。利便性を高め、にぎわいを生み出します。

交通・福祉 精神障がいのある方への運賃割引に向けた設備を整備 1億1,213万円 新規

平成31年4月の開始を予定している市営交通の精神障がい者運賃割引に向け、システムや券売機などを改修。障がいのある方の社会参加につなげます。



これまで見てきたように、市では、さまざまな取り組みを進めていきます。誰もが安心して笑顔で暮らせる街を一緒につくっていきましょう。



予算の仕組みなどをイラストを交えて紹介!

「さっぽろのおサイフ」を4/9(月)から配布します

市の予算や財政状況を解説したパンフレットを、区役所やまちづくりセンターなどで配布します。

